

# スタディ・スキルズ

科目責任者 楫 靖  
学年・学期 1 学年・1 学期

## I. 前 文

最近、「読解力の低下」や「表現力の低下」について報道されています。これは、読み書きの機会が少なくなったことが原因の一つとされています。一方、医療の現場では、患者の方々やその御家族、あるいは他の医療従事者との間でも、言葉や文書による情報のやり取りが日常的に行われます。その過程においては、相手の考えを正確に受け取り、同時に、自分の考えを正確に伝えることが必要となります。そのための第一歩として、文章の書き方に関する基本的な作法や技術を通じ、相手が正確に理解できるようにするための方法について学びます。

また、最近の医学部教育においては「プロフェッショナリズム」が重要なキーワードの一つになっています。これも、相手がどのように感じるかを考える視点が必要になってきます。

これらの授業を通じ、自分自身を客観化する姿勢を身につけ、学生としての在り方を考えて下さい。

## II. 担当教員

教務部長／教授 楫 靖 (放射線医学)  
准 教 授 馬 籠 信 之 (基盤教育部門)  
非 常 勤 講 師 山 根 輝 夫  
外 部 講 師 未 定

## III. 一般学習目標

1. 学生として学ぶべき事」を学ぶ。
2. 相手が理解できるか」「相手がどう思うか」として考える。
3. 文章の「読み」「書き」を通じ、自分の考えを正確に伝える基本的な技術を学ぶ。
4. 患者の視点で「医療従事者として適切な身だしなみや振る舞い」について考える。

## IV. 学修の到達目標

1. 医学部の特徴を理解できる。
2. 医学部生であることを自覚し、適切な行動をとれる。
3. 論理的で分かりやすい文章を書ける。
4. 客観的な視点からの思考ができる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	12	月	1	ロジカル・シンキング①②	山 根 輝 夫	
2		12	月	2	ロジカル・シンキング③	山 根 輝 夫	6 (演習・ レポート)
3		19	月	1	ロジカル・シンキング④	山 根 輝 夫	

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
4	4	19	月	2	ロジカル・シンキング⑤⑥	山 根 輝 夫	6 (演習・ レポート)
5		26	月	1	ロジカル・シンキング⑦⑧	山 根 輝 夫	
6		26	月	2	ロジカル・シンキング⑨	山 根 輝 夫	
7	5	10	月	1	クリティカル・シンキング①	山 根 輝 夫	
8		10	月	2	クリティカル・シンキング②	山 根 輝 夫	
9		17	月	1	実験レポートの構成	馬 籠 信 之	3
10		17	月	2	図や表の読み方と書き方	馬 籠 信 之	6 (演習・ レポート)
11		24	月	1	医学部教育の特徴と学び方	楫 靖	
12		24	月	1	医療現場の接遇	外 部 講 師	

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席および課題により総合的に評価します。

出席および授業態度（10%），山根先生：課題・レポート（70%），馬籠先生：課題・レポート（20%）

#### VII. 教科書・参考書・A V資料

コース毎に提示します。

#### VIII. 質問への対応方法

随時，質問を受けます。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたレポートに，添削・コメントを加え，返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前に配布される講義資料に目を通し，その回の目的をまとめておく。（30分）

授業内容と指示に従ってレポートの作成を行う。（60分）

XII. コアカリ記号・番号

A-1 プロフェッショナリズム

A-2-2) 学修の在り方 ②得られた情報を統合し客観的・批判的に整理して自分の考えをわかりやすく表現できる。